

資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録
2014年度 第8回

報告題名(title) : 農の福祉力の可能性について			
報告者(name)	武居 史弥	日時	11月6日 午後3時～
所属分野(labo)	農業経営経済学分野	場所	第2講義室
座長	黒岩 直人	議事録担当者	江守 智夏子
<p>出席者 米澤、米倉、冬木、高篠、伊藤、石井、鈴木、スシ、宮里、タホウニ、山口、カイ、ナシ、エウハ、西田、江守、小田嶋、金、町田、黒岩、嶋倉、秀、武居、畠山、リゲル、ソコガ</p>			
<p>報告要旨(Abstract)</p> <p>歴史上類をみない速さで少子高齢化が進展している日本において、社会保障費の増大、高齢独居世帯の増加や老後期間の長期化などのさまざまな社会的課題を抱えている。こうした諸課題に対して農はどのようにかかわってきたのか、また、今後どのように関わっていくべきなのか。本報告の目的は、農業・農村が有する“福祉力”に注目し、農が諸課題の解決にむけて役立つ可能性があるかどうか探ることである。</p> <p>※農の福祉力とは、農において「つくること」「たべること」「その場にいること」を通して、①治療、②癒し、③健康づくり、④レクリエーション、⑤生きがいづくり等の効果を発揮する、人の心・気・体などへの作用の一つであると定義する。</p>			

質疑・応答(Q & A)

黒岩：本日の報告では、農の福祉に関する取り組み事例をご紹介頂きましたが、研究を進める前提として、「農の福祉力が社会保障費の抑制につながる」ということが挙げられています。本日もご紹介いただいた事例において、社会保障費の削減効果がどの程度あるのかということを示した定量的なデータはありますか。

武居：現時点での文献調査が十分であるとは言えませんが、ある医療系の先行研究では、ガーデニング等を含む広い意味での農業が、生活習慣病を抑制する効果があることが明らかにされています。そのため、今後さらなる文献調査を行えば、「農の福祉力」の効果を明らかにし、社会保障費の削減との関連性を定量的に示すことも可能かと思われます。しかし、本研究では、「農の福祉力がどの程度社会保障費を削減するのか」ということを取り上げるのではなく、「農の福祉力を生かすことができるビジネスモデルとはどのようなものか」ということをテーマに掲げたいと考えています。

冬木：冒頭では、福祉の中でも特に高齢化に焦点をあてて問題提起をしていると思いますが、本日も紹介された事例の大部分は障害者の就労についてのものであります。福祉と一口にいても、高齢者に対するものもあれば障害者に対するものもあり、それらは分けて考える必要があると思います。そのため、研究を進めるにあたって、福祉をひとくりにするのではなく、いくつかの種類に分けて考えるか、分けたうえで何かに焦点をあてて考える必要があると思います。

また、今後の研究を進める方法について（文献を探るのか、調査をするのか）お話ししてほしいと思います。

今後仮に、高齢者福祉と農の関係に焦点をあてるのであれば、本日も紹介された事例の中にある佐久病院について詳しくヒヤリングしたり、ここでの実践の指導に当たった若月俊一さんの本を読んだりすると良いと思います。また、岩手県の沢内村にも農村と高齢者医療についての事例があります。対象を絞り、より有用な事例を調べていくと良いと思います。

武居：分析方法については、農と福祉の関係についての事例を調べ、対象等をもとに類型化し、研究で扱う調査対象を絞った上で、実際に調査にはいりたいと考えています。そして、最終的には農村の福祉ビジネスモデルを作成し、ポイントをまとめることができればと考えています。